

第 1 学年道徳学習指導案

日 時 平成16年11月25日(木)5校時

対 象 1年1組 男14名 女14名 計28名

指導者 吉 田 泰 治

1 主題名 働くことの尊さ

2 資料名 「山奥の請け負い配達夫さん」(出典『明日をひらく 1年』東京書籍1997年版)

3 主題について

(1)価値について

本時の主題「働くことの尊さ」に関して、学習指導要領の内容項目では「4 主として集団や社会とのかかわりに関すること (5)勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努める。」と示されている。

高度に分業が進んだ現代社会において、一人一人の勤労は、社会の運営・発展の基礎であり、それを通して個人が社会に 参加したり社会的貢献をする場ともなっている。社会において一人一人が勤労を行うことによって個人は、生活を維持する ことができ、自分の幸福を追求することもできる。また、社会に貢献する充実感を生きがいとして味わうことができる。

中学1年生においては、社会的奉仕の精神がまだ幼い段階にあるため、働くことが集団への貢献や自己の充実感につながる ことに気づき、熱心に働こうとする態度が必要であると考えられる。

(2)生徒について

この時期の学級の生徒は、他律的であるとはいえ、指導やルールをしっかりと守ろうとし、与えられた役割もしっかり果たそうとする。しかし、視野が狭く自分本位な面が強いことから、自分に即物的な利益がなかったり、困難さを伴ったりする仕事には熱心さを失うことも見られる。

これまで、仕事や役割に対する責任感の指導は重ねて行っており、学級の係活動や当番活動は滞りなく行われてはいるものの、中には勤労の意義や喜びは感じておらず、形だけをこなし、勤労を集団行動の必要悪のようにとらえている生徒も見られる。

そこで、こうした生徒に、勤労をすることが集団のためになり、個人の生活の充実にもつながるとらえさせ、奉仕の精神 をもって勤労に向かう意欲を育てたい。

(3)指導について

資料について

資料「山奥の請け負い配達夫さん」には、優れた画家でありながら、長年山奥で請け負い配達夫を勤める渡辺淳氏の姿が 描かれている。社会に対する貢献や自分自身の生き方の充実喜びを感じながら、老いても勤労を続ける渡辺氏の姿から勤 労の意義をとらえさせたい。

また、生徒の意識のアンケート結果や身近な方の職業観からも勤労の意義の自覚を広げさせたい。

見つめさせる指導について

学習前後の勤労観を比較させ、グループで発表しあい相互に評価しあうこと・身近な方からのメッセージを聞くことにより、自信や課題意識をもたせ、勤労に対する意欲を高めたい。

4 本時の指導

(1)ねらい

奉仕の精神や生きる充実感を感じながら勤労に励もうとする意欲を育てる。

(2)展開の概要

段 階	学習種と教師の働きかけ	期待する生徒の反応	指導上の留意点(・)授業指導() 心のノートや学習プリントの活用()
導 入	1 勤労感謝の日の活動から学習の方向をつかむ。	・家庭で働いている人に感謝をした。 ・家事を1日だけかわりにやった。	・勤労者ではなく、勤労そのものにも感謝すべきか問かけ、ねらいとする価値への方向づけをする。
展 開	2 資料から、勤労に対する様々な価値観について考える。 (1)読み物資料「山奥の請負い配達夫さん」 渡辺氏は「若く者でこの仕事を引き受ける者はいない」と言っているが、なぜそう考えるのだろう。 立派な画家である渡辺氏が長年請負い配達夫をして来たのはどんな気持ちからか。 (2)グラフ「仕事に対する意識調査」 勤労に対し積極的な人と消極的な人がいるが、それはどうしてだろう。 (3)ビデオ「身軽な大人が仕事について考えていること」 どんな言葉が心に残りましたか。	・休めない ・悪天候・体調不良・正月でも ・給料少ない ・ボーナス・恩典なし ・自律は昔前 ・おばあさんの笑顔 ・なしみ・愛着 ・生活リズムが生まれる ・自分の意識はどれか ・ほかの意識はどんなものがあるか ・自分と同じ意識の人はどれだけいるか ・積極的) ・家族や学級のため ・自分の成長・充実感 ・消極的) ・面倒・疲れる ・楽しくない ・しなくても困らない ・お客さんの喜び ・仕事からうまくいく達成感 ・生きがいを感じる	・身体的な負担や物理的な見返りの少なさが勤労に対して消極的になる要因となることを共感的にとらえさせる。 ・他の人や社会のためになる奉仕の側面と生きがいのような自己の生活の充実感につながる側面があることに気づかせる。 ・自分とは異なる価値観があることに気づかせ、自己の価値観について見つめるきっかけとした。 ・互いの価値観を共感的に語り合わせてい。 ・勤労が他の人や社会の役に立つことや、自分の生きがいにもつながることをつかませた。
見 つ め る	3 自分が仕事についてどう感じるようになったか自分を見つめる。	・みんなのためになるように仕事をしてきた。これからもみんなのためになりたい。 ・仕事は面倒臭いものだと思っていたが、自分に喜びを与えてくれるものだとなった。	勤労に対しての自分の意識の変容について見つめさせ、心のノートに記入させる。見つめられたい、記入できない生徒には板書の言葉を参考させたり、個別に指導したりする。
ま と め る	4 学習のまとめをする。	・面倒臭いものだと思えることが多かったが、みんなのためになったり、自分で喜びを感じられたりできるように仕事に取り組んでいきたい。	・見つめた自分を発表させ合い、相互評価をさせることによって自己肯定意識をもたせた。 ・ビデオ「仕事をする大人から中学生へのメッセージ」を見せ、意欲を高めた。

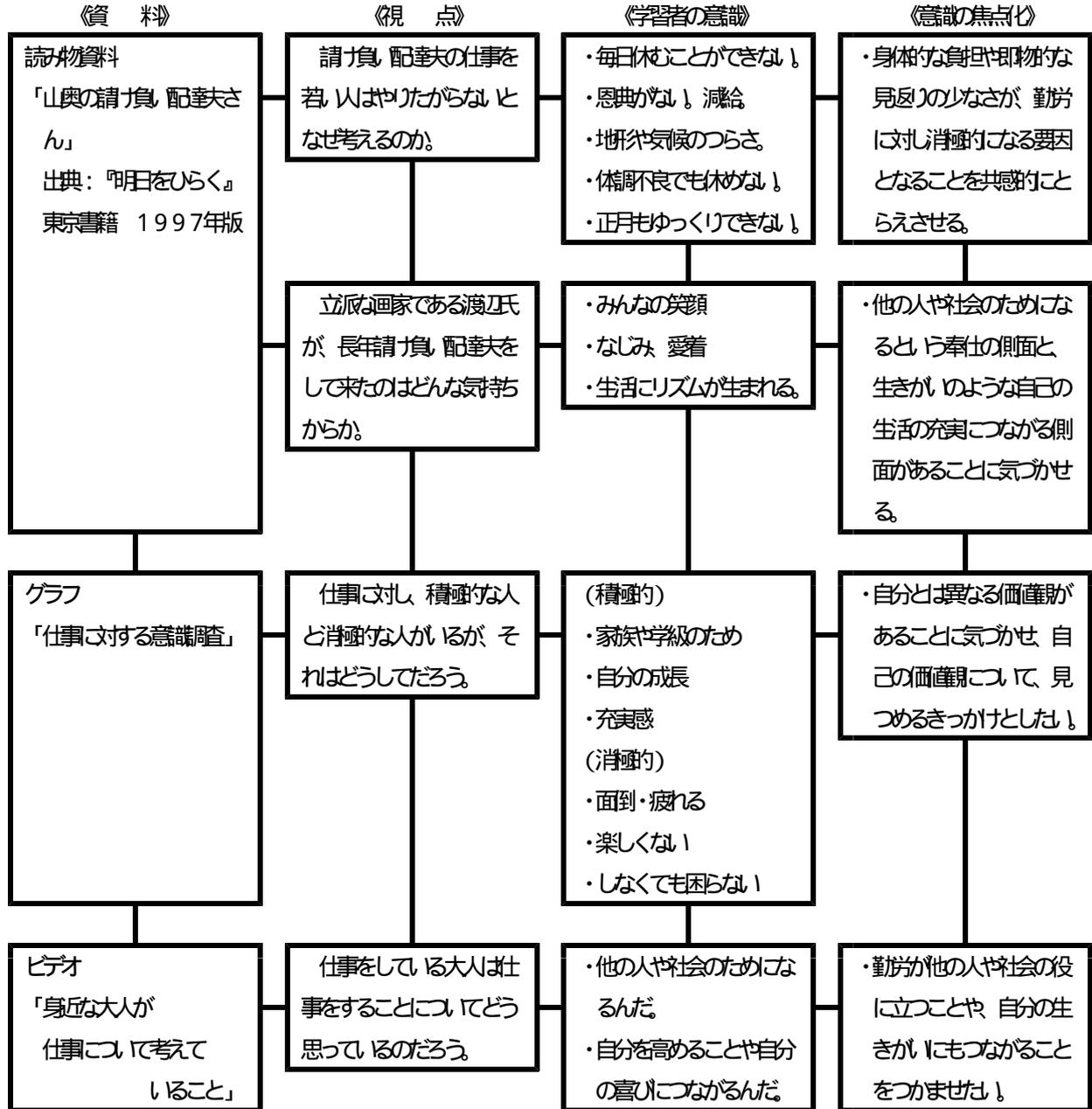
5 資料分析

(1)ねらい

奉仕の精神や生きる充実感を感じながら勤務に励もうとする意欲を育てる。

- 主として集団や社会とのかかわりに関すること -

(2)価値をつかむ資料とその活用



6 板書の概要

働くこと - 自分 感謝すべきことか

「山奥の請け負い配達夫さん」

おばあさんの
笑顔

なじみ・愛着

生活にリズム

の
な
ん
み

の
分
自

休めない
悪天候でも
体調不良でも
正月でも
給料少ない
ボーナスなし
恩典なし
自転車は自前

ト う
に 思
生 をう
年 事ど
17 仕

家族や学級のため

自分の成長

充実感

の
な
ん
み

の
分
自

めんどろ・つかれる

楽しくない

しなくても困らない

大人はどう考えているか

- ・お客様の喜び
- ・成功する喜び
- ・生きがい

7 座席表

意識調査及び日常観察から得られた「奉仕の精神や生きる充実感を感じながら勤務に励もうとする」についての生徒の価値意識

A - 高傾向にある B - 低傾向にある

1 - T	2 - H	3 - T	4 - F			
5 - F	6 - S	7 - N	8 - I	9 - I	10 - I	11 - O
12 - H	13 - K A	14 - S A	15 - T	16 - S	17 - F	18 - S
19 - S	20 - S	21 - T	22 - S B			
23 - H A	24 - O	25 - A B	26 - S A			
27 - M	28 - S					



8 「心のノート」